



## 1. 天地の創造 (創世記 1,1-25)

📖 「初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。」(創世記 1,1-25) 1-4

📖 「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。」創世記 1, 31

➡ 聖書の目的は、救いのために必要な真理を伝えることですので、聖書を通して神は、世界が出来た過程や世界の構造についてではなく、世界の存在の意義とその目的を教えられます。

✧ 世界は無から神によって創造されたものです。(目的があり、有意義なもの)

✧ 創造されたすべてのもの(被造物)は、神によって良いもの(善)として認められました。

### 問題

- 神がこの世界を良いものとして創造されたという聖書の教えを受け入れるために、私たちが毎日のように体験している苦しみや悪が、なぜこの世に存在しているかということを理解する必要があります。

「被造界は固有の善と価値とを備えていますが、創造主からまったく完成したものとして造られたものではありません。神が定めた、これから到達しなければならない究極の完成に「向かう途上」にあるものとして造られました。」

カトリク教会カテキズム 302

✧ 被造界の完成は、神が定めた世界の目的です。

✧ キリストは、それを「神の国」と呼びました。(愛の交わり、愛と自由意志)

## 2. 人間の創造 (創 1,26-31 ; 2,4-25)

📖 「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」創 2:7

2.1 人間は、肉体的な存在(体)と同時に、霊的な存在(靈魂)として創造されました。靈魂と体の合併が人間の本質です。

2.2 人間は、この世のものでありながら、神にかたどって、神に似せて造られたものです。

神は、「何か」とか「何等かの力」ではなく「誰か」、つまり意志、心と知恵のある「どなたか」、位格的な存在、ペルソナなのです。

### ◆ 靈魂の働き(機能)

- 知能、理性 (道具、計画、真、哲学)
- 自己を意識すること (自覚、自分を知る可能性)
- 自由意志 (選択の可能性、罪、悪、善、愛、責任、道徳、倫理)
- 不死(不滅)の魂 (霊的次元、美、芸術、聖、宗教など)

- ◇ **位格・人格**（ラテン語で persona、ペルソナ）は、他者に対して区別される**主体**。また自己が成立つ個物のこと。**理性、自分の存在の意識、意志、性格、価値観**をもっている存在。自分の個性を失うことなく他の位格と繋がること出来る。

## 2.3 人間の使命

📖 「神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」創 1:28

📖 「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。」創 2:15

- 人間が最初から与えられた仕事（支配すること、耕すこと）は、世界を完成させるための協力の象徴です。
- 神は人間から創造のわざの完成のための協力を求めています。
- エデンの園を守るように命令されたとは、何らかの危険性があったということです。

📖 「これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらしあらゆる木を地に生えいさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいさせられた。」創 2:4-9

📖 「主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」創 2:16-17

- 神の愛と神への愛
  - 人間が持っているものすべては神からいただいたものです。
  - 神も人間から自由な贈り物を求めます（聖別）。
  - それは、相互の愛を表す贈り物の交換です。
- 世界と人間を創造し、その目的を定めたことによって神は、善悪を決めました。
- 神の愛を受け、それに応えることができるために自由意志を与えられた人間は、神に逆らう（悪を行う）こともできるのです（目的ではなく可能性）。

📖 「主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」創 2,18

📖 「人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。「ついに、これこそ／わたしの骨の骨／わたしの肉の肉。これをこそ、女（イチャー）と呼ぼう／まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」創 2,20-24

- 人間の相互愛（愛によって他者と結ばれ、愛の実践によって、一致へ向かいます。）

## 2.4 人生の目的

📖 「イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。」 エフェ 1:5-6

📖 「従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身でありキリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。」 エフェ 2,19-21

📖 「すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。」 1 コリ 15:28

- 人間が神にかたどって創造されたのは、愛によって神と結ばれて、神の命にあずかるため、そして最終的に、神に対する人間の愛が完成されることによって神と一致するためです。神と一つになることこそ、人間の創造の目的であり、人間にとって最高の幸福の状態です。
- 目的を定めることによって、神様が善悪を決めました。この目的に人間を近づかせるのは善であり、遠ざけるのは悪です。

「聖性の状態に置かれた人間は、神によって栄光のうちに完全に『神化される』はずでした。」 (カトリック教会カテキズム 398)

- 神を愛し、互いに愛し合うことによって人々は創造のわざの完成のための創造主と協力します。